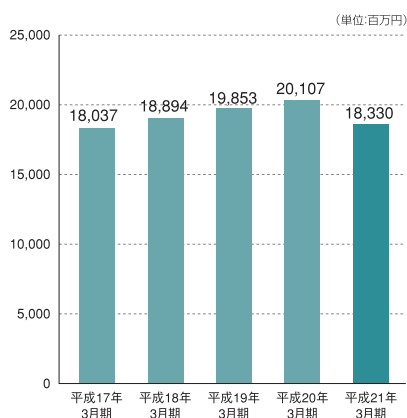


業績のハイライト(個別)

The highlight of achievements

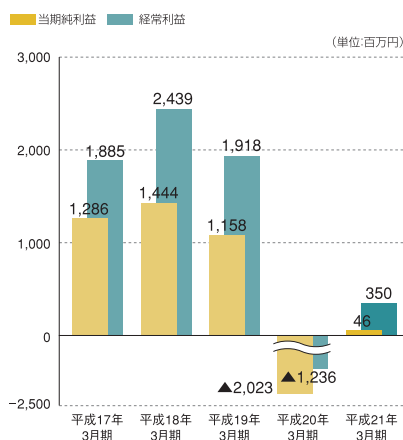
経常収益

経常収益は、金利引下げなどにより有価証券利息配当金や貸出金利が減少したことや、投資信託の販売が低迷したことなどから、183億30百万円(前年同期比8.8%減)となりました。



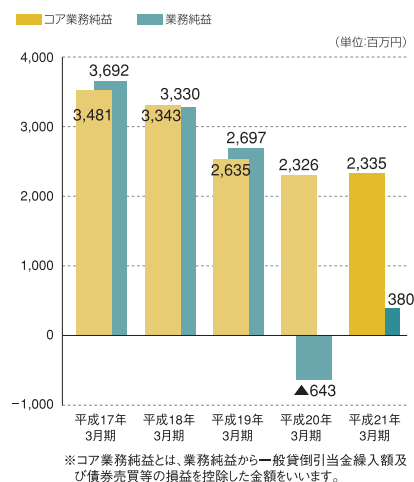
経常利益・当期純利益

経常利益は、金融危機に伴う世界的な金融市場の混乱の影響を受けて、保有有価証券の一部について23億円の減損処理を実施したものの、貸倒償却引当費用が減少したことなどから、3億50百万円(前年同期比128.3%増)となりました。当期純利益も46百万円(前年同期比102.3%増)となりました。



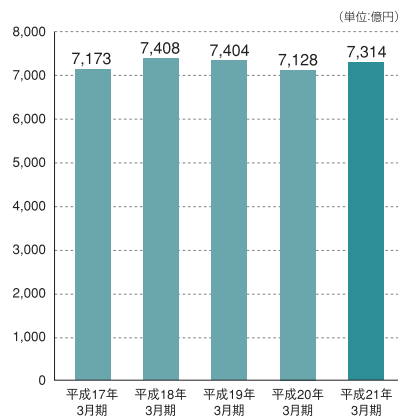
コア業務純益・業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、業務粗利益が減少したものの、経費全般の削減に取り組んだことから、前年と同水準の23億35百万円(前年同期比0.3%増)となりました。



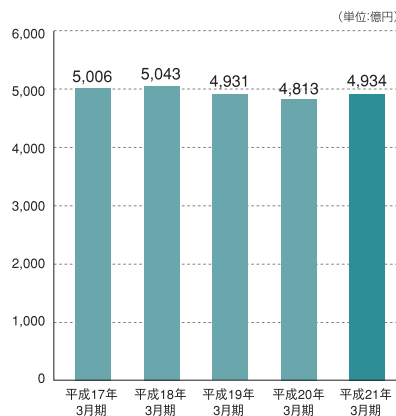
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、主力の個人預金をはじめ、公金預金などが増加したことなどから、7,314億73百万円(前年同月比2.6%増)となりました。



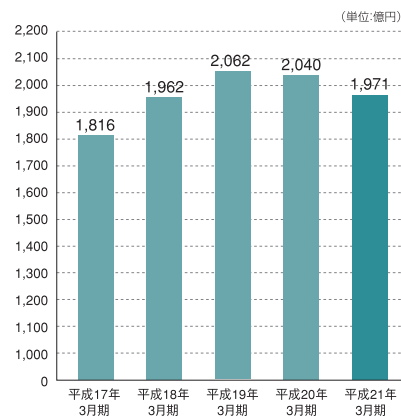
貸出金残高

貸出金残高は、住宅ローン残高が減少したものの、営業力の強化により、中小企業向け貸出が増加したことや、地方公共団体向け貸出が堅調に推移したことなどから、4,934億96百万円(前年同月比2.5%増)となりました。



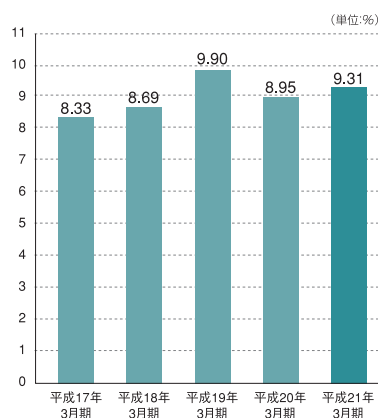
有価証券残高

有価証券残高は、1,971億78百万円(前年同月比3.3%減)となりました。



単体自己資本比率(国内基準)

単体自己資本比率(国内基準)は、前年同月比0.36ポイント上昇の9.31%となりました。



格付

当行では、第三者による評価をととして、財務内容の健全性と経営の透明性を積極的に開示していくことにより、株主やお取引先の皆さまに当行の経営状況をより深くご理解いただくことを目的に、株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しております。

格付機関

株式会社日本格付研究所(JCR)

格付種類

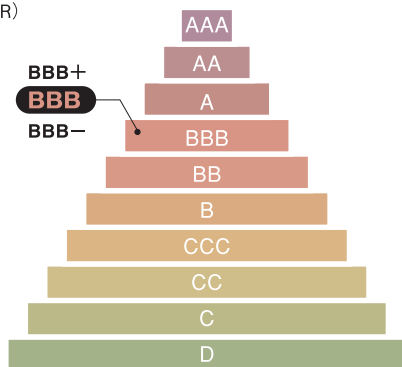
長期優先債務格付

格付

BBB(トリプルBフラット)

見通し

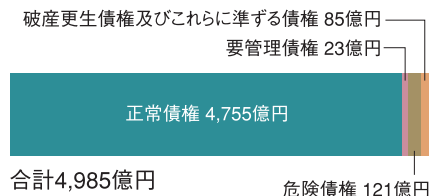
安定的



金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、銀行の保有する債権(貸出金・支払承諾見返等)のうち、正常債権以外の債権額は230億29百万円(前年同月比56億8百万円減)となりました。

金融再生法に基づく開示債権額(平成21年3月末現在)



金融再生法開示債権の保全内訳

(平成21年3月末現在、単位:百万円)

	債権額(A)	保全額(B)	保全内訳		保全率(B/A)
			担保・保証等	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	8,561	8,561	6,246	2,314	100.00%
危険債権	12,103	11,254	10,454	800	92.99%
要管理債権	2,364	1,057	608	449	44.73%
正常債権	475,509	265,123	264,039	1,084	55.76%
合計	498,539	285,997	281,349	4,648	57.37%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権

3か月以上滞滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移

